平成27年度発達障害に関する教員の専門性向上事業

大竹市立大竹小学校の取組

研究テーマ

思考力を育成する指導の在り方

～主体的にかかわり合い，自らの学びを深める
算数科の授業づくりを通して～

焦点化　視覚化　共有化

授業実践①（プラン）

◆第５学年　算数科　単元名「小数のわり算」

◆本時の目標

余りのある小数のわり算で，除数と余りの大きさの関係について理解することができる。

◆児童の状況と，それをふまえた指導・支援のポイント

学級全体の状況
・形式的に計算することはできるが，わり算の意味や場面を具体的に考えて問題を解こうする児童が少ない。
・式は書いているが，なぜそうなるのか説明できない児童がいる。

特別な支援が必要な児童の状況
【Ａ児】
・わり算の筆算の仕方を理解できていない。
・学習の積み上げができていない。
・指示を聞き洩らしやすい傾向がある。
【Ｂ児・Ｃ児】
・わり算の筆算の仕方は概ね理解している。
・小数の仕組みが理解できていない。

指導・支援のポイント
・単元の初めや授業の開始時に既習事項を復習する時間をとり，全員が学習のねらいを達成するために必要な事項を確認する。（思考のスタートラインをそろえる）
・問題の場面を絵や図で表したり，数直線やます図を使ってどの部分を求めようとしているのか視覚化したりして余りの大きさを実感させる。（視覚化）
・少人数の教え合いの中で，考えを整理し思考を深めさせる。（ペア・グループ学習）

授業実践②実践の具体

思考のスタートラインをそろえる

学級全体
・小数のわり算の筆算
　商の小数点の位置を
間違える児童

特別な支援が必要な児童
・わり算の筆算の仕方が
　分からない（Ａ児）
・小数の仕組みが理解
　できていない（Ｂ児Ｃ児）

授業の導入（一斉指導）　前指導（個別指導）

思考のスタートラインをそろえる

本時の目標：余りのある小数のわり算で，除数とあまりの大きさの関係について理解することができる。

授業実践②実践の具体

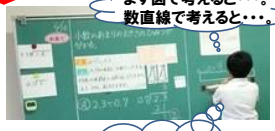
視覚化

・わり算の意味や場面をイメージできない
・小数の仕組みが理解できていない（Ｂ児Ｃ児）

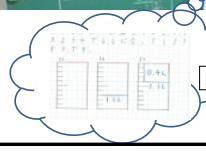
2．3Lのジュースを0．7L入りの水筒にいれていきます。何個の水筒をいっぱいにできますか。また，何L余りますか。

2．3÷0．7＝2　余り2？
余り0．2？

0.7dL　0.7dL ⇔ 余り 2dL？あれ？



ます図で考えると･･･。
数直線で考えると･･･。



児童のノート

授業実践②実践の具体

ペア・グループ学習

発表の順の工夫
教え合いの場の設定

考えを整理する
理解を深める
自己肯定感を高める

授業実践③成果・課題

○　思考のスタートラインをそろえるために必要なことを焦点化したことで，全員が余りの大きさについて考えることができた。

○　ます図や数直線を使い視覚化することで，正しい余りに気付く児童がいた。

●　目標達成に至らない児童が５人いた。

①　必要以上に支援を行ったために時間不足となり，準備していた実物を見せられなかった。そのため，余りの量を実感を伴って理解させることができなかった。

②　学習のまとめが教師の説明で終わり，児童の言葉でまとめをすることができなかったため，児童自身で思考を整理しながら学習内容を確認することができなかった。

授業実践④今後の改善点

☆適正な時間配分ができるよう，学習内容や支援の方法をより精査していく。

☆指導者が説明して学習のまとめを行うのではなく，児童の言葉で学習のまとめを行うことで，児童自身が思考を整理し，学習内容を確認できるようにする。

普及・啓発①拠点教諭の取組

「大竹小中授業スタイル」の作成

中学校区への普及

小中合同研修

普及・啓発②拠点教諭の取組

◆校内研修

・学習指導案の中の特別支援教育の視点について

・研修内容の還元

星槎大学　阿部利彦先生の講演

長門市教育委員会　伊藤幹哲先生の講演

同じ絵でも，見るポイントは人によって違うんだ！

・校内研修の中のミニ模擬体験コーナー

「この絵をかく時どこからかく？」

「こんなふうに言葉がけしたらどんな気持ち？」

◆保護者に向けて

・生徒指導だより

コラム「みんなで伸びる」

普及・啓発③拠点校の取組

◆特別支援教育の視点の共有

①視覚支援

黒板周りの掲示物の整理等

学習に集中できる環境

②聴覚支援

簡潔な指示

声の強弱，トーンの工夫等

静寂の時間も活用

③学習規律

全校で同じ指導の徹底

スタートウィーク　ありがとうカード

みんなで徹底！

④評価

個別に具体的な評価

児童同士の評価等

ほめる場面を増やす

◆児童の情報の共有

公開研究会・市内特別支援教育研修会で発信

今年度の成果・課題

	成　果	課　題
授業実践	・焦点化，視覚化をキーワードに授業を行ったことは，目標の達成に有効だった。	・支援の内容を精査できなかった。 ・児童が思考を整理し，学習のまとめをする流れとなっていない。
普及・啓発	・児童の混乱を少なくするために「指導をそろえる」「情報の共有」に組織的に取り組んだ。 ・市内研修会で特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりについて確認できた。	・「型」や「方法」の普及で終わっている。 ・大竹市内の特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担任への普及にとどまっている。

次年度への展望

	取組の重点
授業実践	効果的な焦点化，視覚化，共有化へ 課題発見・解決学習への発展
普及・啓発	授業実践をもとに，具体的な指導の工夫や支援の方法とその精査について研修する。 児童理解について研修する。 市の研修でより多くの教職員へ普及できるようにする。